



企画：松原 由美（早稲田大学人間科学学術院教授）

社会が成熟すれば少子高齢化が進み、医療や介護といった人をケアする産業が地域の基幹産業の一つとなるのは、日本だけではなく先進国共通の現象といえよう。その中でも日本は突出して高齢化が進み、病院や福祉施設などのケアを担う組織が、誰もが住みやすいまちづくりを推進する役割を果たしはじめている。地域密着型の事業で、地域住民と近い存在の中小病院にとり、地域の活力維持の可否は事業基盤に大きく影響する。本特集では中小病院の経営戦略としてまちづくりを取り上げ、その戦略、具体的方法、効果、留意点について考察し、これからの中小病院のあり方を探る。

本特集の論旨が分かる Point 一覧

p.348 世代間格差など二項対立による分断が進む中、誰をも包摂する普通の日常を実現することこそ、平時の安全保障である。中小病院がまちづくりに取り組むことは、地域を支え、また地域に支えられる信頼関係を構築することで病院の存在意義を高める。楽しく強いまちづくりが求められる。（松原 由美）

p.360 地域密着型病院として、年齢や障害の有無にかかわらず、全ての人々が交流できる「ごちゃまぜ」の場を創出し、医療・介護にとどまらない多機能型の地域づくりを実践することで、持続可能な地域社会の構築を目指している。（田中 志子）

p.368 地域包括ケア病棟は「暮らし」と「医療」の結節点となる病棟である。地域住民やそこで働く医療者が自宅死を当たり前に想像できるようになるための場所として最適で、超高齢社会の日本の課題解決の一助となる。（水野 慎大）

p.374 「まごころサポート」は、高齢者の日常生活を支援する有償ボランティア「まごころコンシェルジュ」を中心に、高齢者が安心して暮らせる地域社会づくりを目指す画期的な取り組みである。AIを活用した見守りシステムや、高齢者の就労支援、住環境整備など、多角的なアプローチで高齢化社会の課題解決に挑戦している。（青木 慶哉）

p.380 新たな地域医療構想等に関する検討会では高齢者救急と在宅医療に対応する病院が必要とされている。この中心的な役割を担うのは地域密着中小病院＝在宅療養支援病院である。超高齢社会に求められる地域包括ケアシステムを維持するため、地域連携の中心で中小病院の活躍が求められる。（梶原 崇弘）